

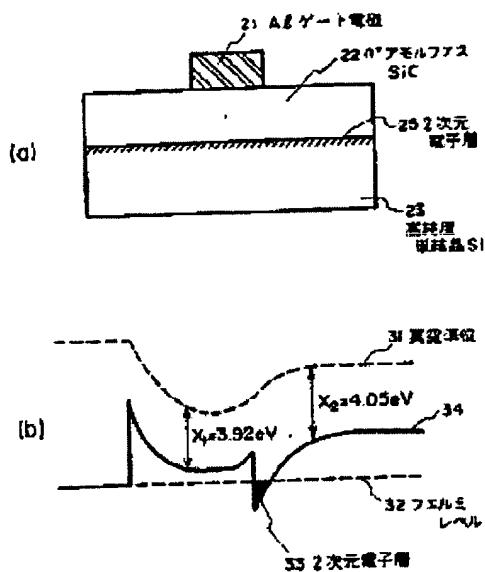
TWO-DIMENSIONAL ELECTRON GAS FET

Patent number: JP62086867
Publication date: 1987-04-21
Inventor: HONJO KAZUHIKO
Applicant: NIPPON ELECTRIC CO
Classification:
- **international:** H01L29/778; H01L29/66; (IPC1-7): H01L29/80
- **european:** H01L29/778E2
Application number: JP19850229253 19851014
Priority number(s): JP19850229253 19851014

Abstract of JP62086867

PURPOSE: To simply obtain high speed two-dimensional electron gas FET by bonding an n-type amorphous semiconductor to a single crystal semiconductor having large electron affinity, and forming a gate electrode on the amorphous semiconductor.

CONSTITUTION: An n<+> type amorphous SiC film 22 is accumulated on a high purity single crystal Si, and an aluminum gate electrode 21 is further formed thereon. Since the electron affinity of the amorphous SiC is smaller than that of the single crystal Si, a two-dimensional electron layer 33 is formed at the single crystal Si side. The sheet carrier density of the layer 33 is controlled by altering the potential of the gate electrode 21, and since the mobility of the electrons of the single crystal Si side is extremely high, high speed two-dimensional electron gas FET can be simply manufactured by using the Si crystal.



⑩ 日本国特許庁 (JP) ⑪ 特許出願公開
⑫ 公開特許公報 (A) 昭62-86867

⑬ Int.Cl.
H 01 L 29/80

識別記号 庁内整理番号
B-8122-5F

⑭ 公開 昭和62年(1987)4月21日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑮ 発明の名称 2次元電子ガスFET

⑯ 特 願 昭60-229253
⑰ 出 願 昭60(1985)10月14日

⑱ 発明者 本城 和彦 東京都港区芝5丁目33番1号 日本電気株式会社内
⑲ 出願人 日本電気株式会社 東京都港区芝5丁目33番1号
⑳ 代理人 弁理士 内原 晋

明細書

(従来技術)

近年 $AlGaAs/GaAs$ のように格子定数がほほ等しく、電子親和力に差がある異種の半導体の接合界面に蓄積されるキャリア電子すなわち2次元電子ガスを利用した電界効果トランジスタ(FET)の開発が活発に行なわれている。従来の2次元電子ガスFETの構造およびバンド図を各々第3図(a), (b)に示す。

同図(a)に示されたように半絶縁性 $GaAs$ 基板4の上にMBE法或いはMOCVD法等により高純度 $GaAs$ 層3, $n^+AlGaAs$ 層2が成長されている。これらの半導体層は全て単結晶である。 $n^+AlGaAs$ 層2の表面側には Al ゲート電極1が設けられている。このようなFETのゲート電極直下のバンド構造を(b)に示す。 $AlGaAs$ の電子親和力 x_1 と $GaAs$ の電子親和力 x_2 の間には、

$$x_1 < x_2$$

の関係がある。このため伝導帯の底1, 2は図示したように曲がり高純度 $GaAs$ 層に2次元電子層14が生ずる。13はフェルミレベルである。2次元

1. 発明の名称 2次元電子ガスFET

2. 特許請求の範囲

n 型アモルファス半導体とこのアモルファス半導体より電子親和力の大きい高純度あるいは p 型の単結晶半導体との接合界面の前記単結晶半導体側に生ずる2次元電子ガス層のシートキャリア密度を、前記 n 型アモルファス半導体表面側に設けたショットキー金属ゲート電極又は p 型アモルファス半導体ゲート電極の電位を変えることにより制御することを特徴とする2次元電子ガスFET。

3. 発明の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本発明は異種半導体接合界面における2次元電子ガスを用いた電界効果トランジスタ(FET)に関するものである。

電子層14のシートキャリア密度はゲート電極1の電位を変えることにより制御する。

このようないわゆるデバイスとは別に、MISおよびMOSトランジスタにおいても高純度単結晶半導体に電子チャネルを形成することもできるが、この場合電子はソース電極から注入することになる。したがってゲート電極自身をマスクとした自己整合によってゲート、ドレイン、ソース電極を形成しない限りにおいてはソース電極からの電子注入が少い動作条件下では大きな寄生抵抗を持つことになる。しかしながら第3図従来例のFETではソース電極からの電子注入が無くても高純度単結晶半導体に2次元電子層は存在しており、さらにPBTのしきい値電圧は $n^+AlGaAs$ 層2だけのドーピング濃度と厚さで自由に変えられ、これらの点で大きくMIS又はMOSトランジスタと異なり、設計の自由度は大きい。

(発明が解決しようとする問題点)

従来の2次元電子ガスFETは全ての半導体層を単結晶で実現しているため、格子定数をほぼ合

せるという意味においても化合物半導体を用いる必要がありMBE、MOCVD等の複雑な装置を用いて、結晶成長させなければならなかった。また、一般に化合物半導体のプロセスは難かしいため、再現性よくデバイスを実現することができなかつた。

本発明の目的は前記欠点を除去し、MBE、MOCVD等を用いずに2次元電子ガスFETを実現し、さらに化合物半導体を用いずに特にSi結晶を用いて高速な2次元電子ガスFETを実現することにある。

(問題を解決するための手段)

本発明によれば、 n 型アモルファス半導体と、このアモルファス半導体より電子親和力の大きい高純あるいは p 型の単結晶半導体との接合界面の前記単結晶半導体側に生ずる2次元電子ガス層のシートキャリア密度を前記 n 型アモルファス半導体表面側に設けたシートキャリアを用いてゲート電極又は p 型アモルファス半導体ゲート電極の電位を変えることにより制御することを特徴とする2次元電

子ガスFETが得られる。

(作用および実施例)

第1図(a)、(b)は本発明の一実施例の2次元電子ガスFETの断面構造図およびバンド構造図である。同図(a)において高純度単結晶Si上に p^+ アモルファスSiC22が堆積され、さらにその上にAlゲート電極が設けられている。同図(b)にはゲート電極直下のバンド構造を示す。アモルファスSiCの電子親和力 x_1 はCの含有量によって変化させることができるがおおむね $x_1 = 3.92 \text{ eV}$ である。一方単結晶Siの電子親和力 x_2 は 4.05 eV である。このため

$$x_1 < x_2$$

となり2次元電子層33が単結晶Si側に生ずる。すなわち p^+ アモルファスSi層は電子供給層となり、電子は高純度単結晶Si側を走行する。このため走行する電子は不純物散乱を殆ど受けない。したがってフォノン散乱を無くするために冷却すれば、極めて高い電子移動度が得られる。2次元電子層33のシートキャリア密度はゲート電極の電

位を変えることによって制御できる。

図において32はフェルミレベル、34は伝導帯の底である。

このような本発明においては半導体ヘテロ接合を、単結晶半導体とアモルファス半導体とから構成するため格子整合に対する配慮は全く必要なく、Siのような單原子半導体を用いても高移動度な2次元電子ガスFETを構成できるという大きな特徴を有する。FET製造プロセスにおいてもMBE装置等を用いる必要がないため安価で大量に2次元電子ガスFETを製造することができる。

第2図(a)、(b)は本発明の第2の実施例の電子断面構造図およびバンド構造図を示すものでゲート電極が p^+ アモルファスSiC51になっている他は第1図と全く同じである。この場合も p^+ アモルファスSiC51の電位を変えることにより2次元電子ガス層33のシートキャリア密度が制御される。この場合は p^+ アモルファスSiCのバンドギャップ、フェルミレベルを各々Cの含有量、 p^+ の濃度を変えることにより、FETのしきい値電圧を自由に

変えることができ、第1の実施例に比べて設計上の自由度が大きいという特徴を有する。

(発明の効果)

このような本発明においては2次元電子ガス供給層として p^+ アモルファス半導体を用いるため、プロセスが簡単になり、しかも単結晶層には化合物半導体を用いる必要がないためSiを用いても2次元電子ガスPBTを実現できる。このため2次元電子ガスPBTを安価で大量に製造でき、半導体工学上大きな意義を有する。

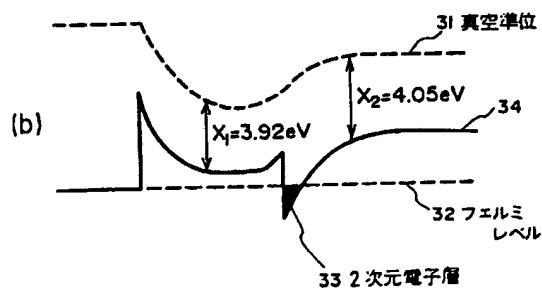
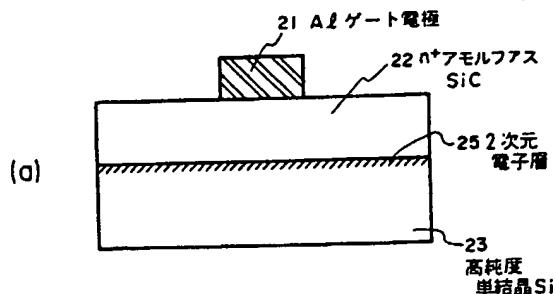
4. 図面の簡単な説明

第1図、第2図は本発明の実施例で第3図は従来例である。各々の図において(a)は素子の断面構造図、(b)はバンド構造図である。図において21はAlゲート電極、51は p^+ アモルファスSiC、22は n^+ SiC、23は高純度単結晶Siである。

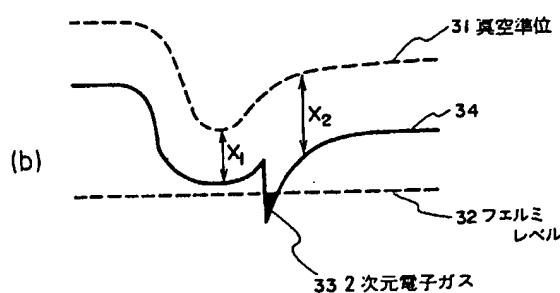
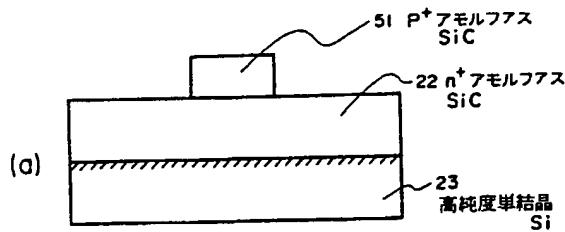
代理人弁理士内原



オ 1 図



オ 2 図



オ 3 図

